

# 富士山静岡空港の収支試算結果

別紙

## I パターン1（空港管理運営に係る収支）

### 1 キャッシュフローベース（県決算ベース）の収支 （単位：千円）

区 分	平成 25 年度 a	平成 24 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
収 入	146,920	139,321	7,599	5.5
支 出	664,488	677,481	△12,993	△1.9
収 支	△517,568	△538,160	20,592	3.8

収支増減の主な要因：支出は事務所運営費等の効率的執行により減少し、収入は国内線の増便に伴い着陸料収入が増加したことなどにより、収支は約2千万円、対前年度比3.8%改善した。

### 2 企業会計の考え方を取り入れた収支

できる限り企業会計に近いものとして収支の状況を明らかにするため、平成26年3月の着陸料等収入は平成25年度収入とするなど、発生主義の観点に立って収支を算出している。

（単位：千円）

区 分	平成 25 年度 a	平成 24 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
営業収益＋営業外収益	145,910	139,871	6,039	4.3
営業費用＋営業外費用	664,488	677,481	△12,993	△1.9
経常損益	△518,578	△537,610	19,032	3.5

経常損益増減の主な要因：費用は事務所運営費等の効率的な執行により減少し、収益は国内線の増便に伴い着陸料収入が増加したことなどにより、収支は約1千9百万円、対前年度比3.5%改善した。

## II パターン2（空港管理運営及び空港整備に係る収支）

### 1 キャッシュフローベースの収支

空港管理運営に係る収入・支出に、空港整備に伴う収入（国庫補助金、地方交付税相当額）及び支出（空港整備事業費、借入金償還金）を加えたキャッシュフローベース（県決算ベース）の収支を算出している。

（単位：千円）

区 分	平成 25 年度 a	平成 24 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
収 入	451,667	447,599	4,068	0.9
支 出	1,879,868	1,916,956	△37,088	△1.9
収 支	△1,428,201	△1,469,357	41,156	2.8

収支増減の主な要因：支出は事務所運営費等の効率的な執行や借入金償還金（県債に係る元金及び利子償還金）の減により減少し、収入は国内線の増便に伴い着陸料収入が増加したことなどにより、収支は約4千万円、対前年度比2.8%改善した。

### 2 企業会計の考え方を取り入れた収支

空港は利潤を追求する一般企業とその性格は異なるものの、空港施設を企業が運営したとすればどの様な収支となるかといった視点で分析し、その収支を算出している。

（単位：千円）

区 分	平成 25 年度 a	平成 24 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
営業収益＋営業外収益	216,252	212,626	3,626	1.7
営業費用＋営業外費用	1,917,558	1,941,798	△24,240	△1.2
経常損益	△1,701,306	△1,729,172	27,866	1.6

経常損益増減の主な要因：費用は事務所運営費等の効率的な執行や借入金償還金（県債に係る利子償還金）の減により減少し、収益は国内線の増便に伴い着陸料収入が増加したことなどにより、収支は約2千8百万円、対前年度比1.6%改善した。